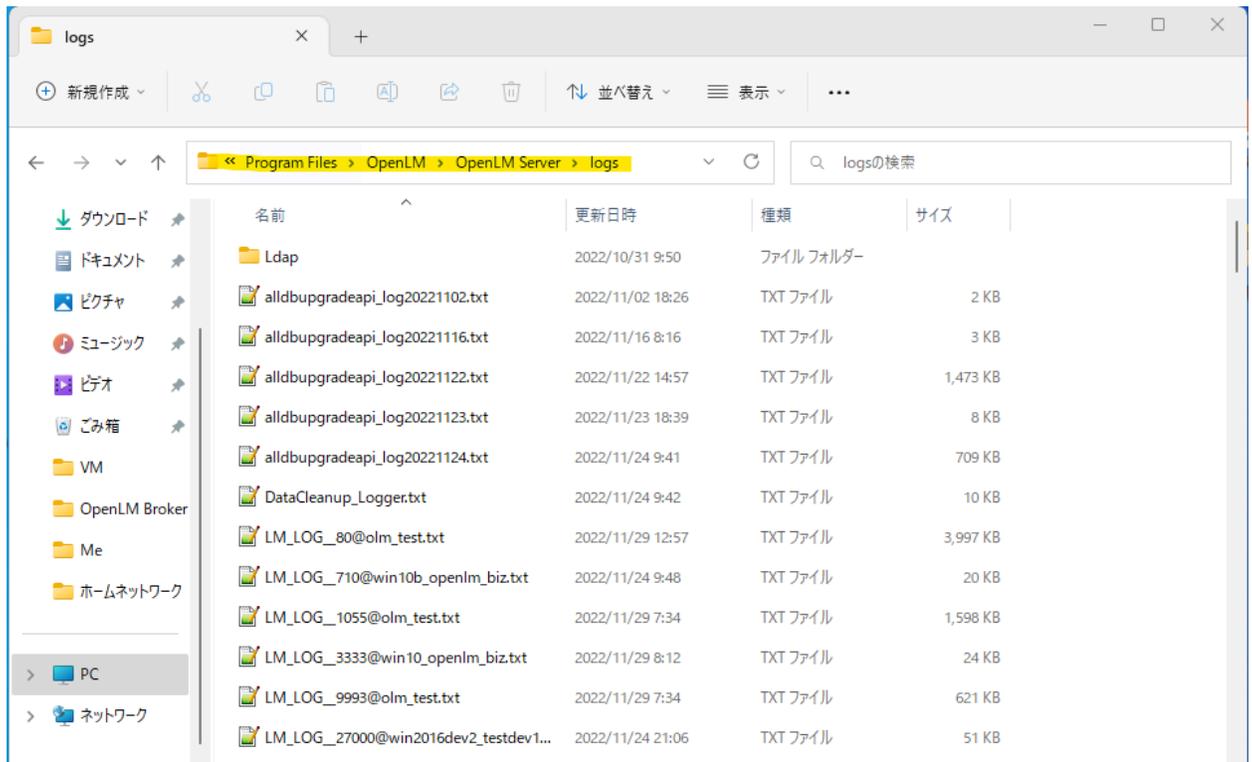


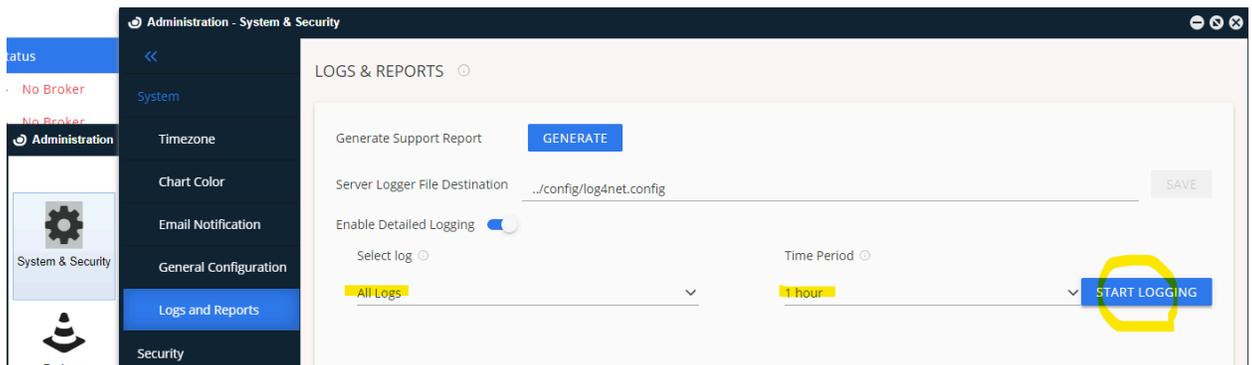
OpenLMコンポーネントから詳細なログを取得する方法

<OpenLM Server>

1. Windows サービスで OpenLM Server サービスを停止
2. ログフォルダーのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



3. Windows サービスで OpenLM Server サービスを開始します。
4. EasyAdmin で詳細ログを有効にします。

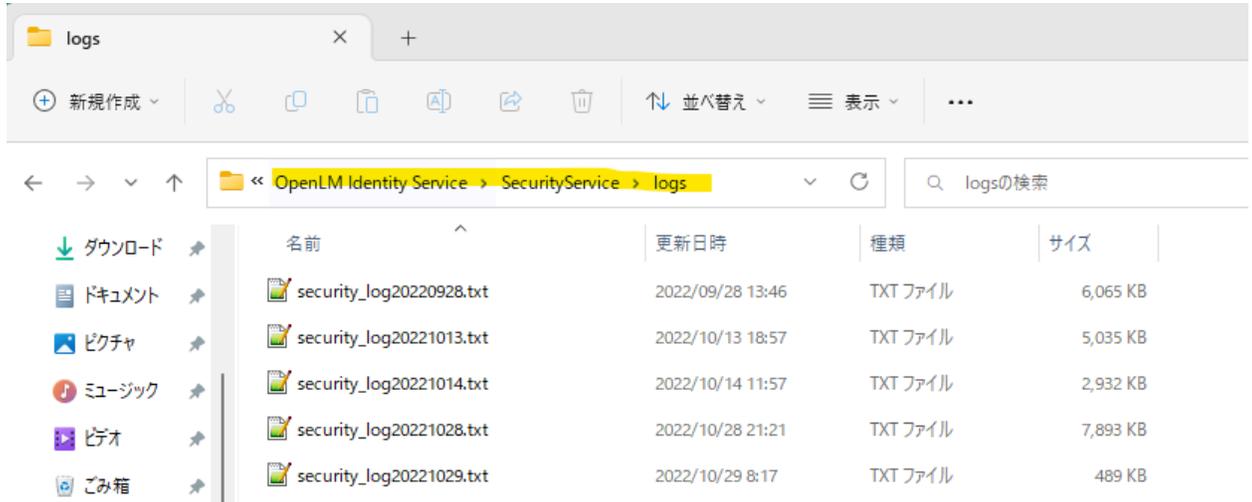


[すべてのログ] を選択し、エラーを再現する期間を設定します。

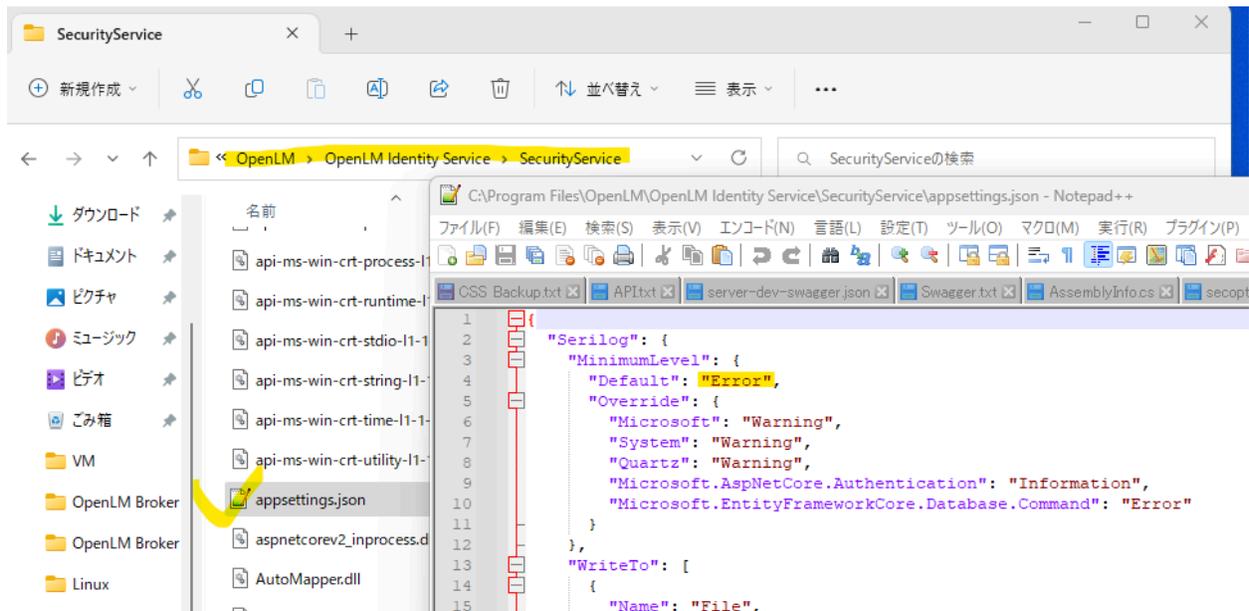
5. EasyAdmin でエラーを再現
6. ログフォルダをコピーし、送信用に圧縮します。古いものと新しいものを送ってください。

<Identity Service>

1. Windows サービスで Identity Service を停止します。
2. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



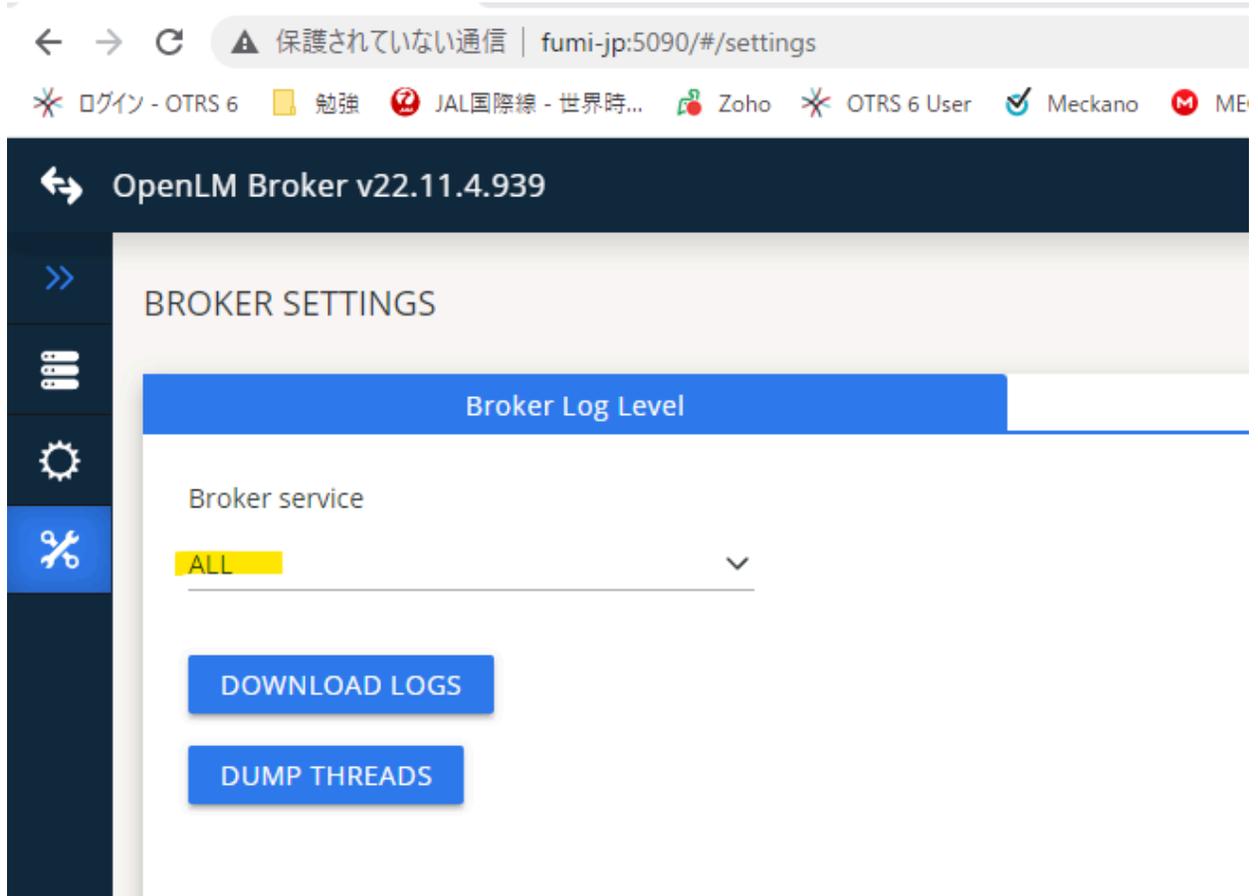
3. appsettings.json ファイルでログレベルを Verbose に設定します。
"MinimumLevel": "Default": "Verbose"



4. Windows サービスで Identity サービスを再起動します。エラーを再現します。
5. フォルダをコピーし、送信用に圧縮します。古いものと新しいものを送ってください。
6. ログレベルを「Error」に戻します。サービスを再起動します。

<Broker UI>

1. ログレベルを変更するには Broker UI があります。
同じネットワーク内のリモートコンピューターから Broker UI にアクセスすることもできます。
このドキュメントを参照してください。
<https://www.openlm.com/Japan/broker-web-ui/>
2. ログレベルをALLに設定してください。BrokerService を再起動する必要はありません。

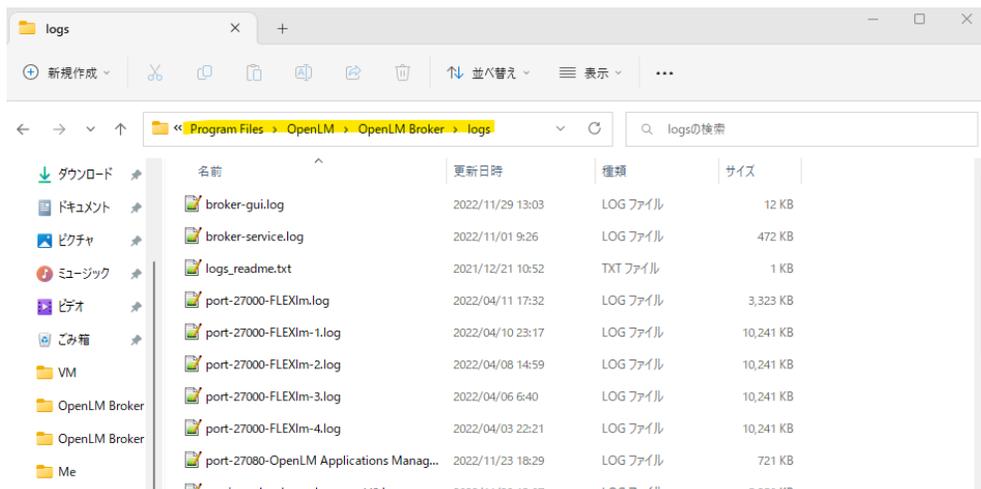


3. エラーを再現します。少なくとも 15 分間ブローカーを実行します。
4. Log zip ファイルをダウンロードして、弊社までお送りください。
5. **broker.xml.backup** および **bufferfiles** フォルダーも一緒にお送りください
6. ログレベルをデフォルトに戻してください。
7. Broker UI を使用できない場合は、次のセクション Brokerマニュアルを参照してください。

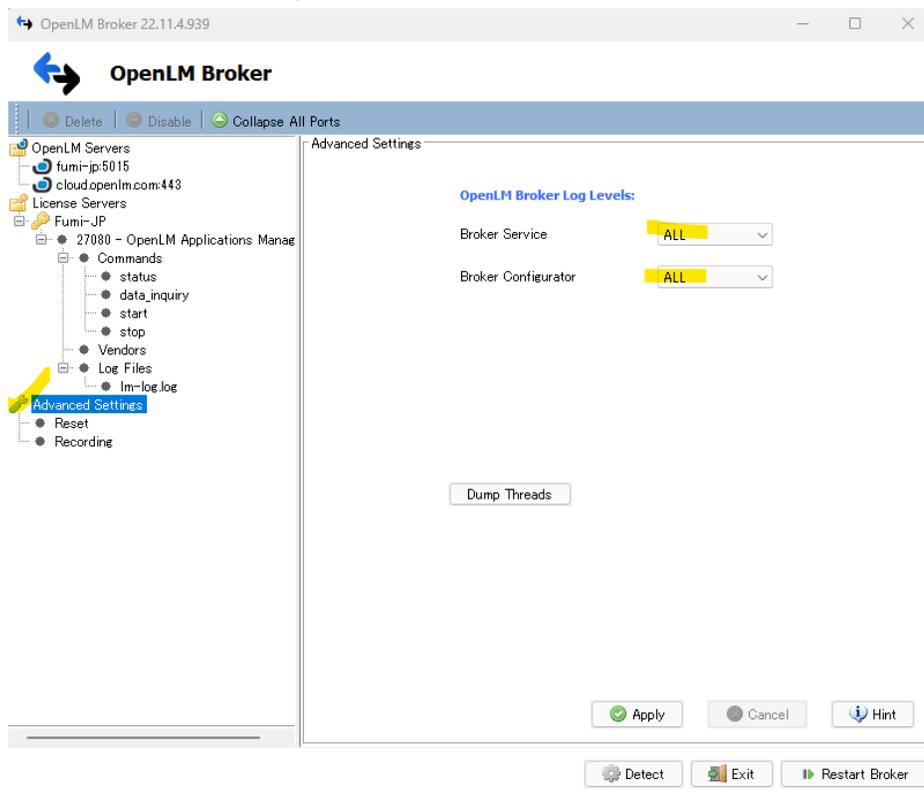
<Broker マニュアル>

1. Windows サービスで Broker サービスを停止します。

2. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



3. 詳細ログは Broker Configuration Toolで設定できます。ALL に設定します。

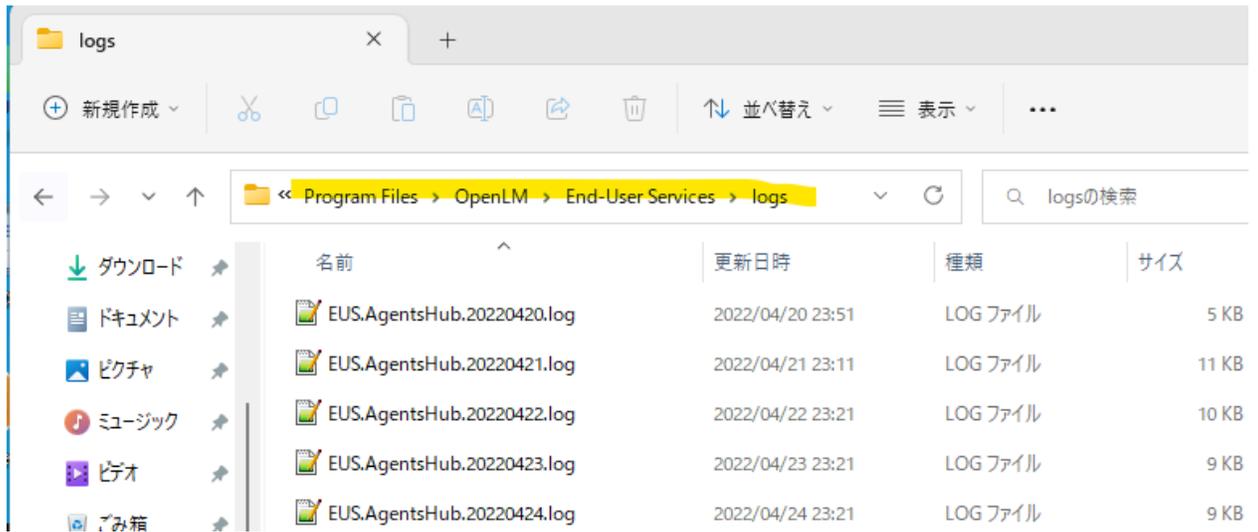


4. Brokerを再起動します。次にエラーを再現します。少なくとも15分間実行します。
5. ログフォルダーをコピーし、送信用に圧縮します。ログレベルを「Error」に戻します。
6. broker.xml.backup および bufferfiles フォルダも一緒にお送りください。
7. Brokerを再起動します。古いものと新しいものを送ってください。

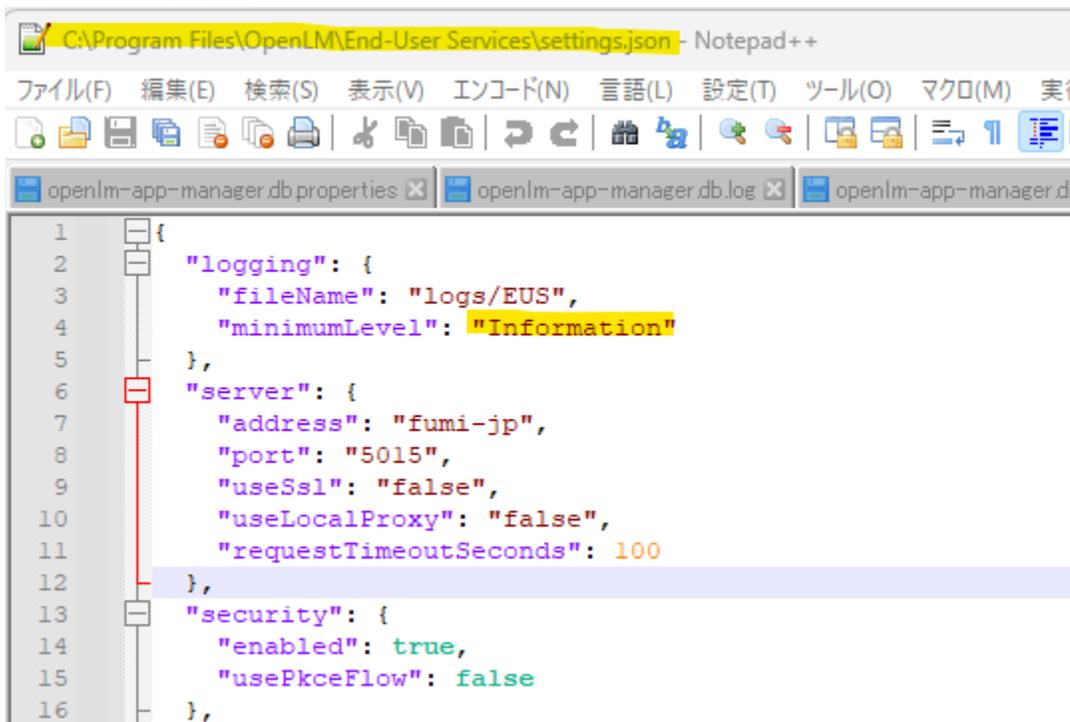
<Personal Dashboard (End User Services)>

1. Windows サービスでEnd User Servicesを停止します。

2. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



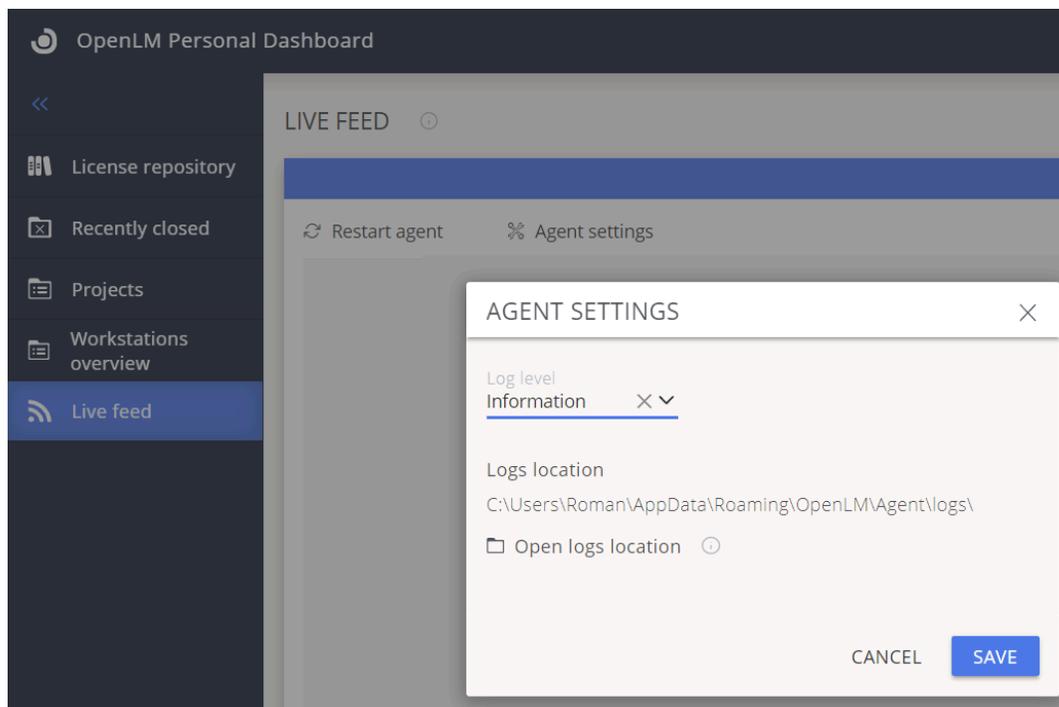
3. settings.json ファイルで、ログをVerboseに設定します。“minimumLevel”: “Verbose”



4. Windows サービスでEnd User Servicesを再起動します。エラーを再現します。
5. ログフォルダーをコピーし送信用に圧縮します。新旧両方とも送ってください。
6. ログレベルを「Information」に設定し、Windows サービスでEnd User Servicesを再起動します。

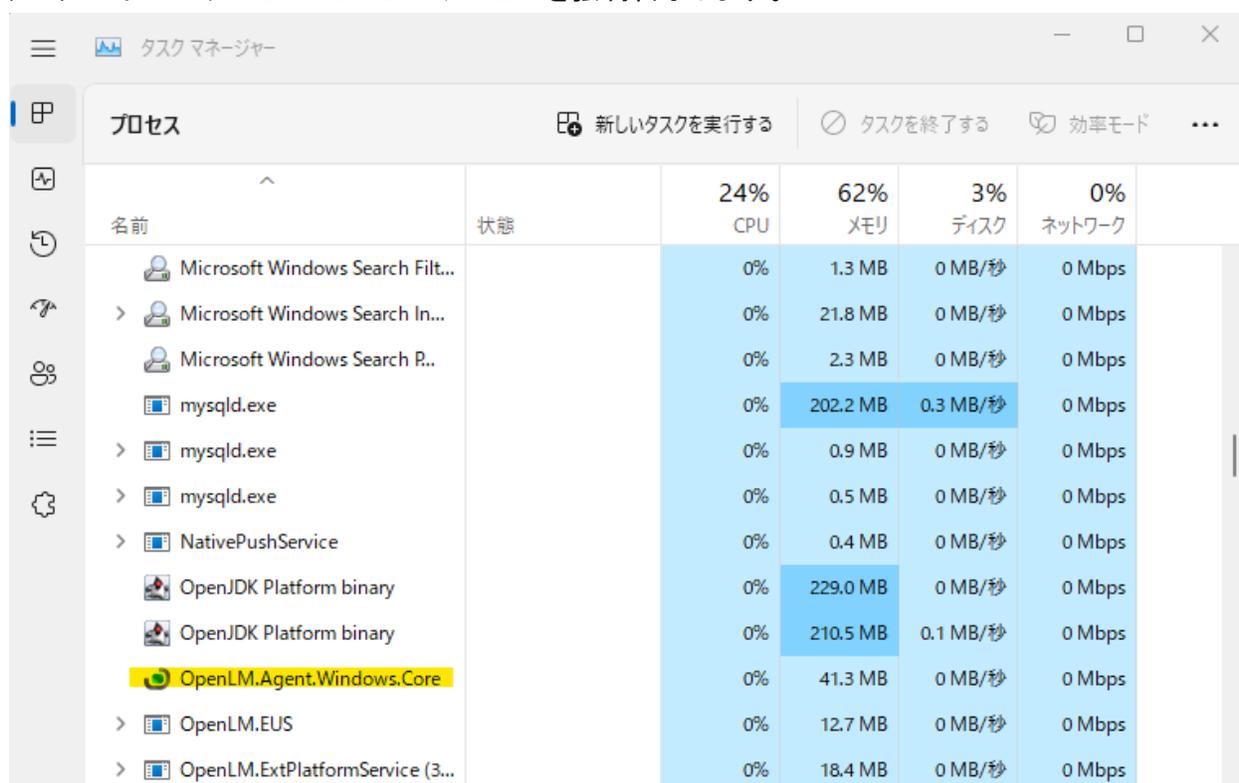
<Workstation Agent>

AgentとEUSのv22.12以降、パーソナルダッシュボードを使用してAgentのログレベルを変更します。Agentを再起動する必要はありません。ログレベルは永続化されないため、現在実行中のAgentのインスタンスに対してのみ、それを変更したユーザーに対して実行されます。「Verbose」に設定します。



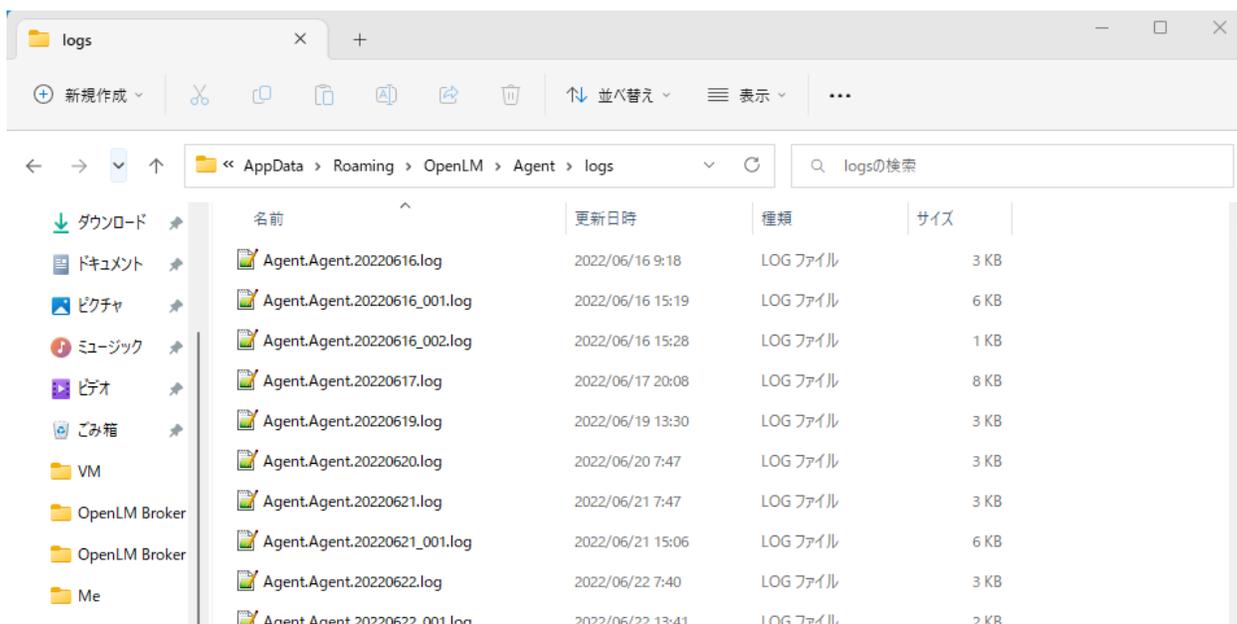
古いバージョンの場合は、下記の様に手動で実行してください。

タスク マネージャーでエージェント サービスを強制終了します。



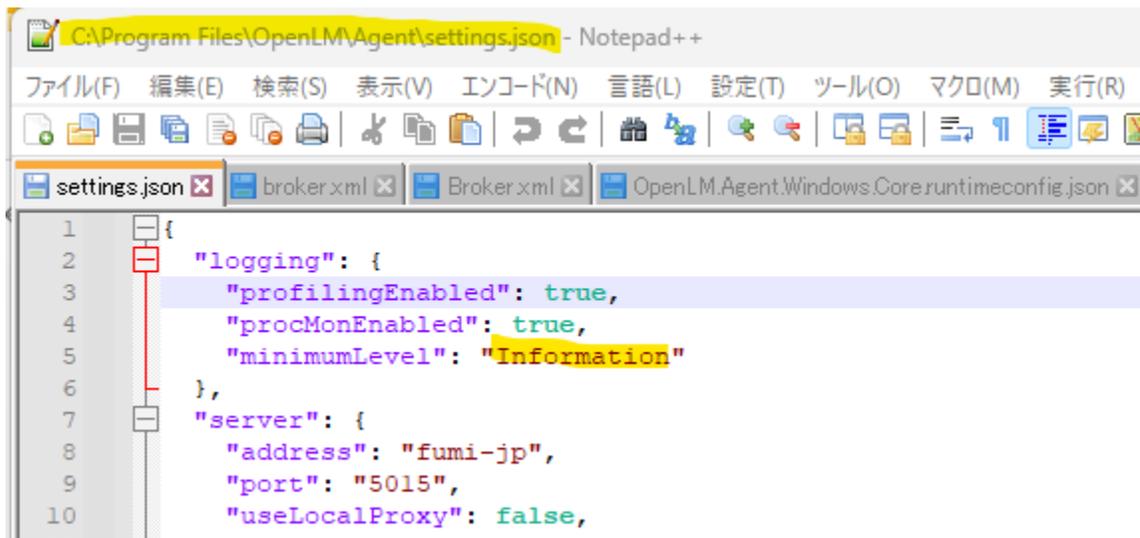
名前	状態	24% CPU	62% メモリ	3% ディスク	0% ネットワーク
Microsoft Windows Search Fil...		0%	1.3 MB	0 MB/秒	0 Mbps
> Microsoft Windows Search In...		0%	21.8 MB	0 MB/秒	0 Mbps
Microsoft Windows Search P...		0%	2.3 MB	0 MB/秒	0 Mbps
mysql.exe		0%	202.2 MB	0.3 MB/秒	0 Mbps
> mysql.exe		0%	0.9 MB	0 MB/秒	0 Mbps
> mysql.exe		0%	0.5 MB	0 MB/秒	0 Mbps
> NativePushService		0%	0.4 MB	0 MB/秒	0 Mbps
OpenJDK Platform binary		0%	229.0 MB	0 MB/秒	0 Mbps
OpenJDK Platform binary		0%	210.5 MB	0.1 MB/秒	0 Mbps
OpenLM.Agent.Windows.Core		0%	41.3 MB	0 MB/秒	0 Mbps
> OpenLM.EUS		0%	12.7 MB	0 MB/秒	0 Mbps
> OpenLM.ExtPlatformService (3...		0%	18.4 MB	0 MB/秒	0 Mbps

1. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



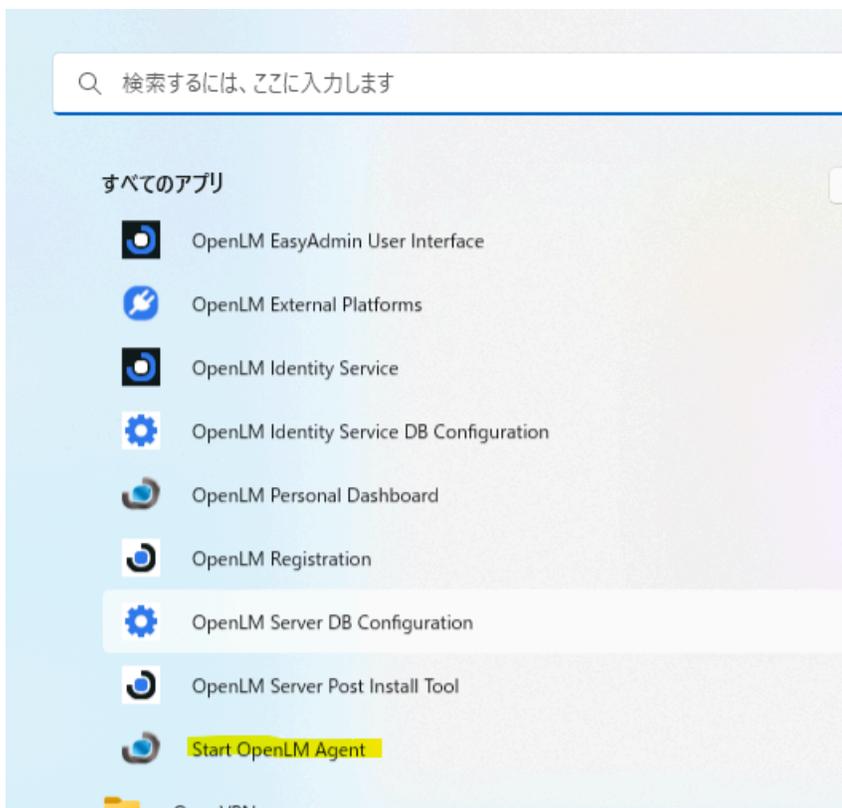
名前	更新日時	種類	サイズ
Agent.Agent.20220616.log	2022/06/16 9:18	LOG ファイル	3 KB
Agent.Agent.20220616_001.log	2022/06/16 15:19	LOG ファイル	6 KB
Agent.Agent.20220616_002.log	2022/06/16 15:28	LOG ファイル	1 KB
Agent.Agent.20220617.log	2022/06/17 20:08	LOG ファイル	8 KB
Agent.Agent.20220619.log	2022/06/19 13:30	LOG ファイル	3 KB
Agent.Agent.20220620.log	2022/06/20 7:47	LOG ファイル	3 KB
Agent.Agent.20220621.log	2022/06/21 7:47	LOG ファイル	3 KB
Agent.Agent.20220621_001.log	2022/06/21 15:06	LOG ファイル	6 KB
Agent.Agent.20220622.log	2022/06/22 7:40	LOG ファイル	3 KB
Agent.Agent.20220622_001.log	2022/06/22 13:41	LOG ファイル	2 KB

2. settings.json ファイルでログ レベルを Verbose に設定します。
"minimumLevel": "Verbose"



```
1 {
2   "logging": {
3     "profilingEnabled": true,
4     "procMonEnabled": true,
5     "minimumLevel": "Information"
6   },
7   "server": {
8     "address": "fumi-jp",
9     "port": "5015",
10    "useLocalProxy": false,
```

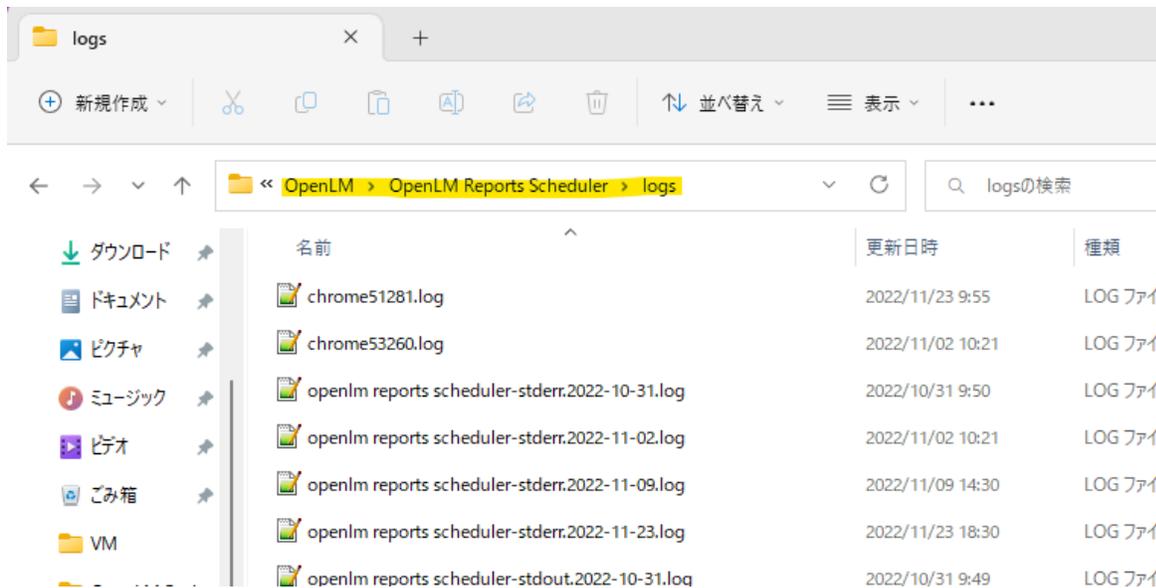
3. Agentを再起動します。エラーを再現します。



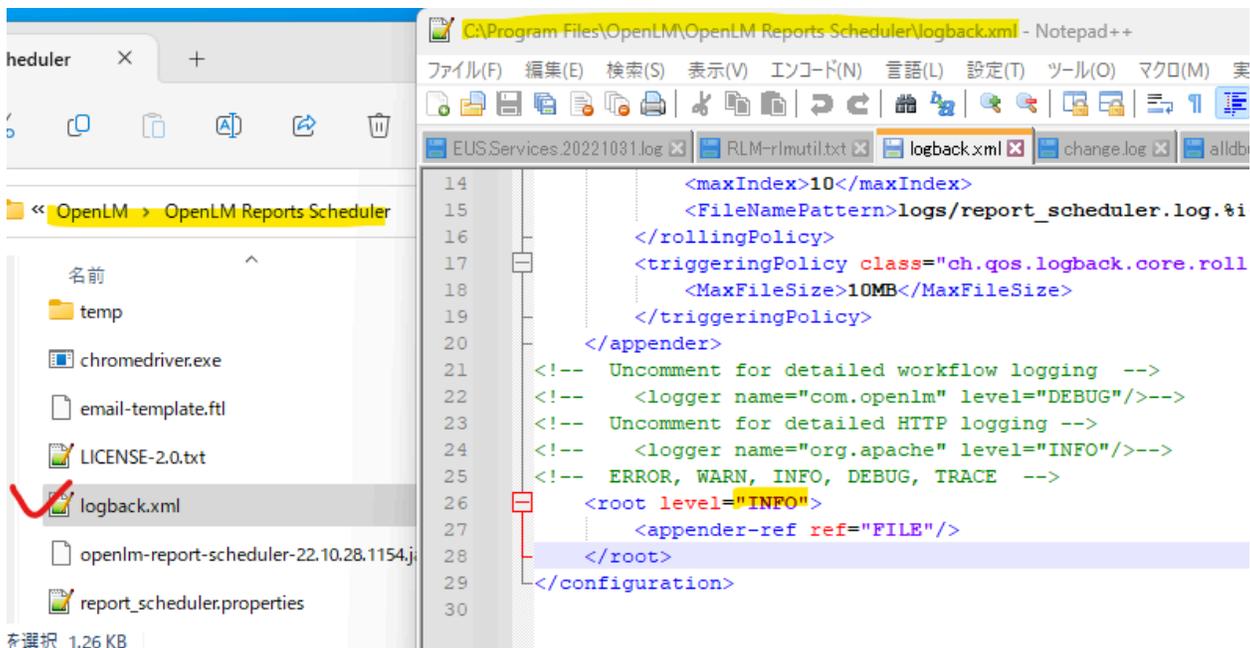
4. ログフォルダーをコピーし、送信用に圧縮します。
古いものと新しいものを送ってください。
5. ログレベルを「Information」に戻します。
6. Agentを再起動します。

<Reports Scheduler>

1. Windows サービスの Reports Scheduler サービスを停止します。
2. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



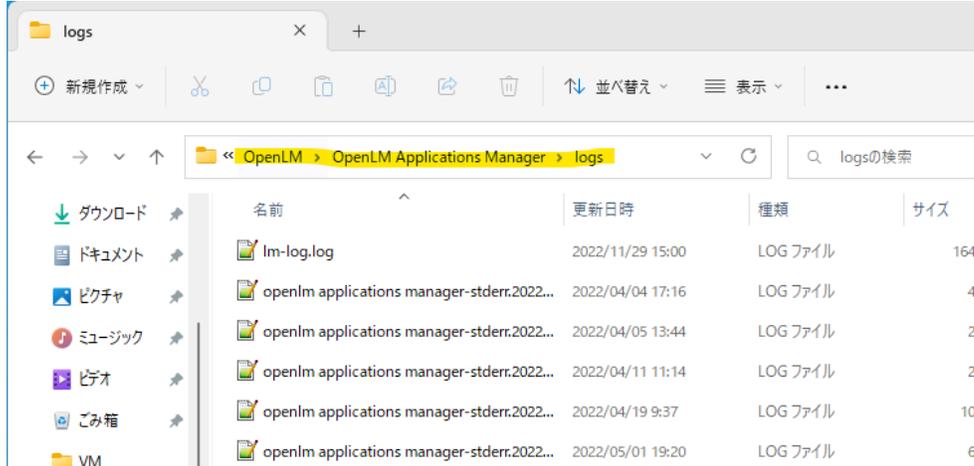
3. logback.xml でログレベルを DEBUG に設定します。必要に応じてコメントアウトされた部分を調整します。



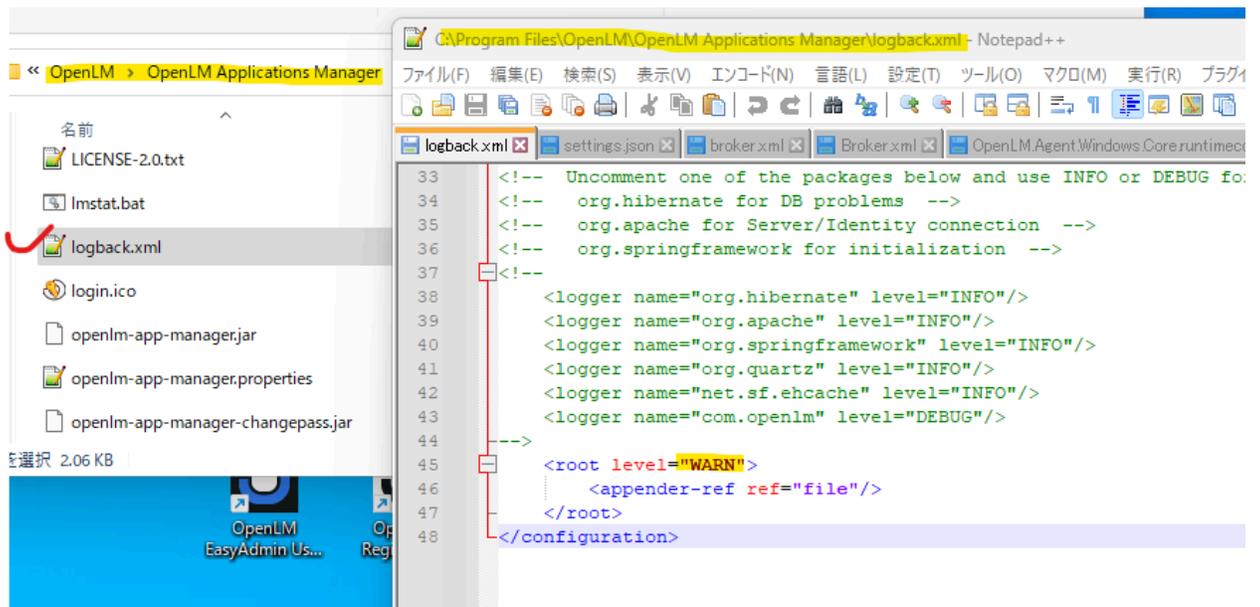
4. Windows サービスで Reports Scheduler サービスを再起動します。
5. エラーを再現します。
6. フォルダをコピーし、送信用に圧縮します。古いものと新しいものを送ってください。
7. ログレベルをデフォルトに戻します。Windows サービスでサービスを再起動します。

<Applications Manager>

1. Windows サービスで Applications Manager サービスを停止します。
2. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



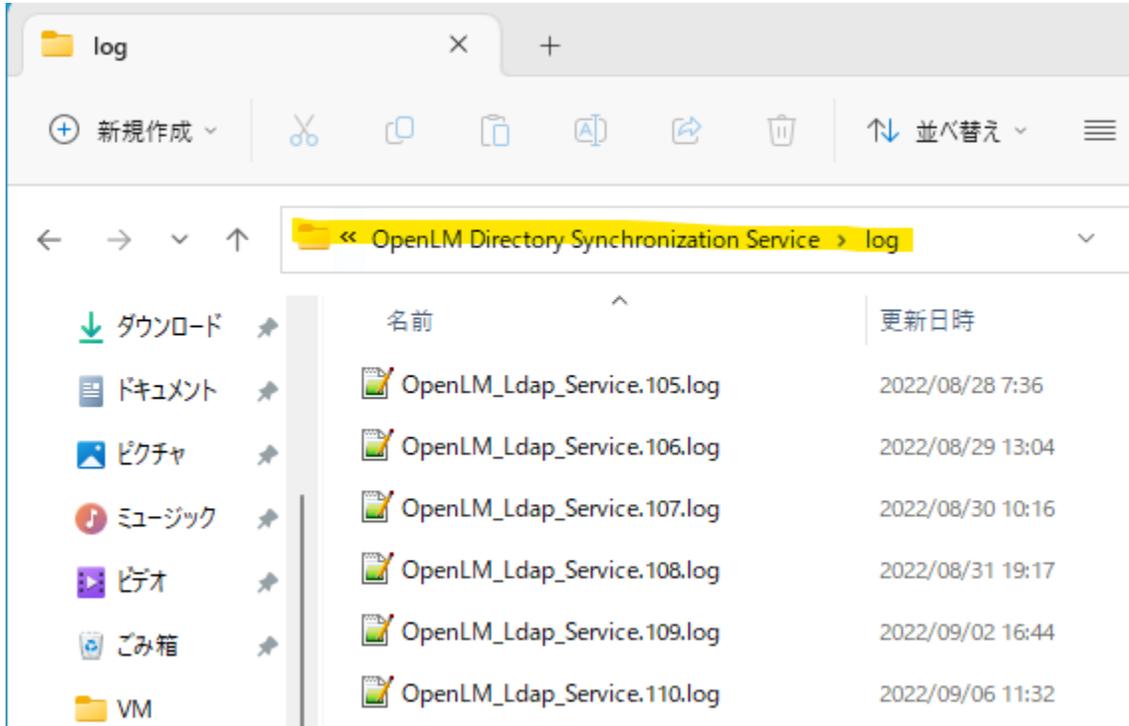
3. logback.xml でログレベルを DEBUG に設定します。必要に応じてコメントアウトされた部分を調整します。



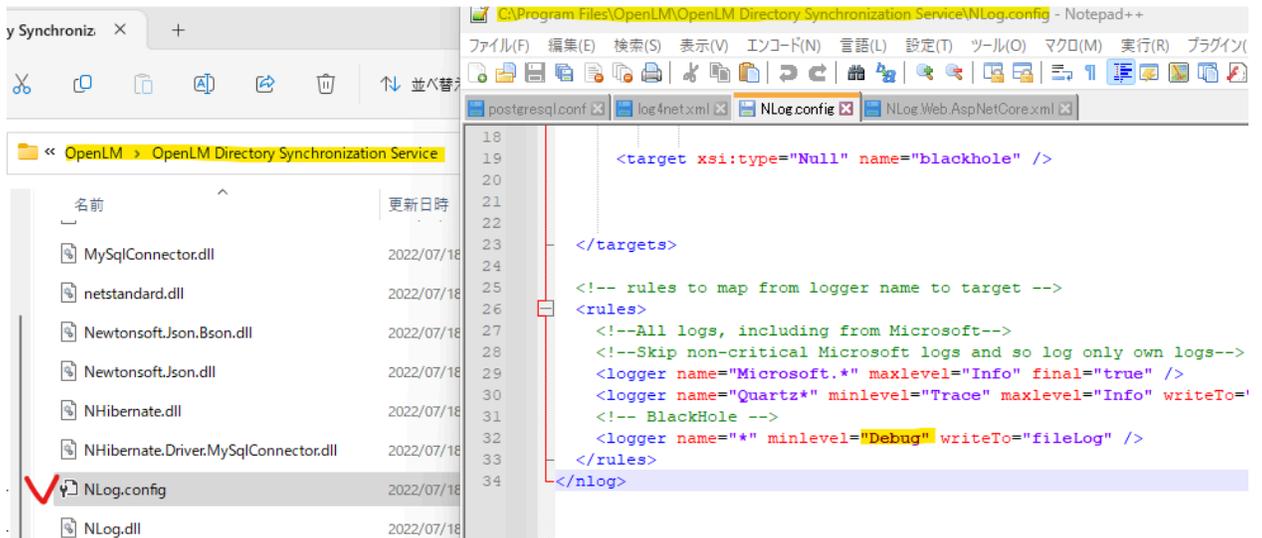
4. Windows サービスで Applications Manager サービスを再起動します。
5. エラーを再現します。
6. フォルダをコピーし、送信用に圧縮します。古いものと新しいものを送ってください。
7. ログレベルをデフォルトに戻します。Windows サービスで サービスを再起動します。

<DSS>

1. Windows サービスで DSS サービスを停止します。
2. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



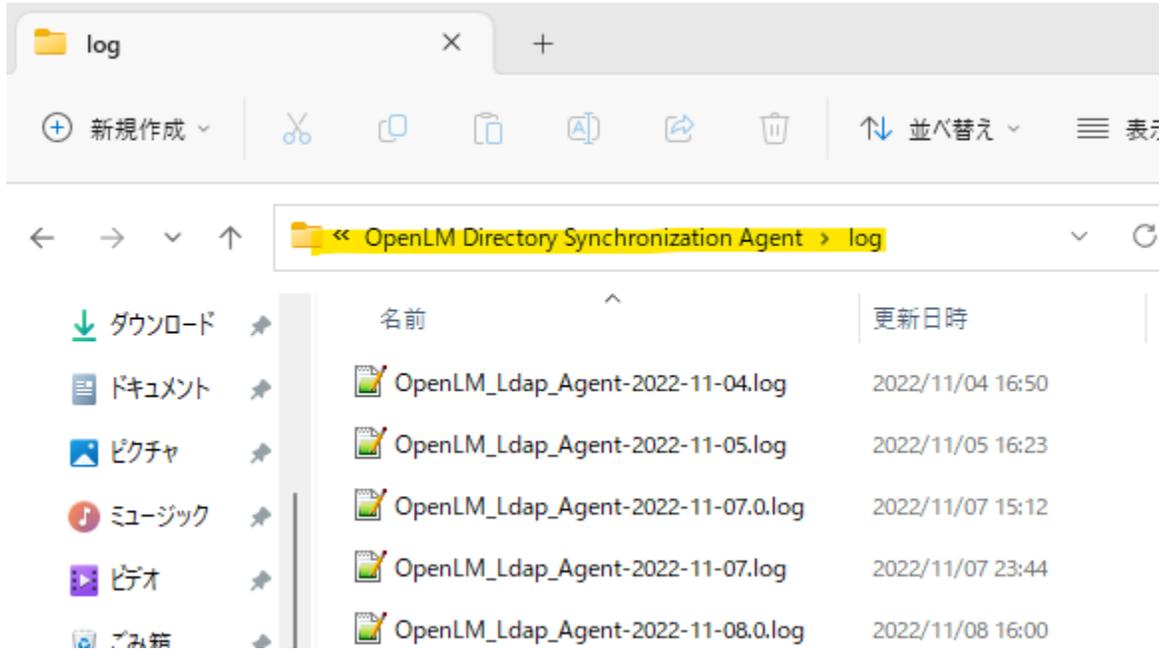
3. NLog.config でログ レベルを「Debug」に設定します。minlevel="Debug".



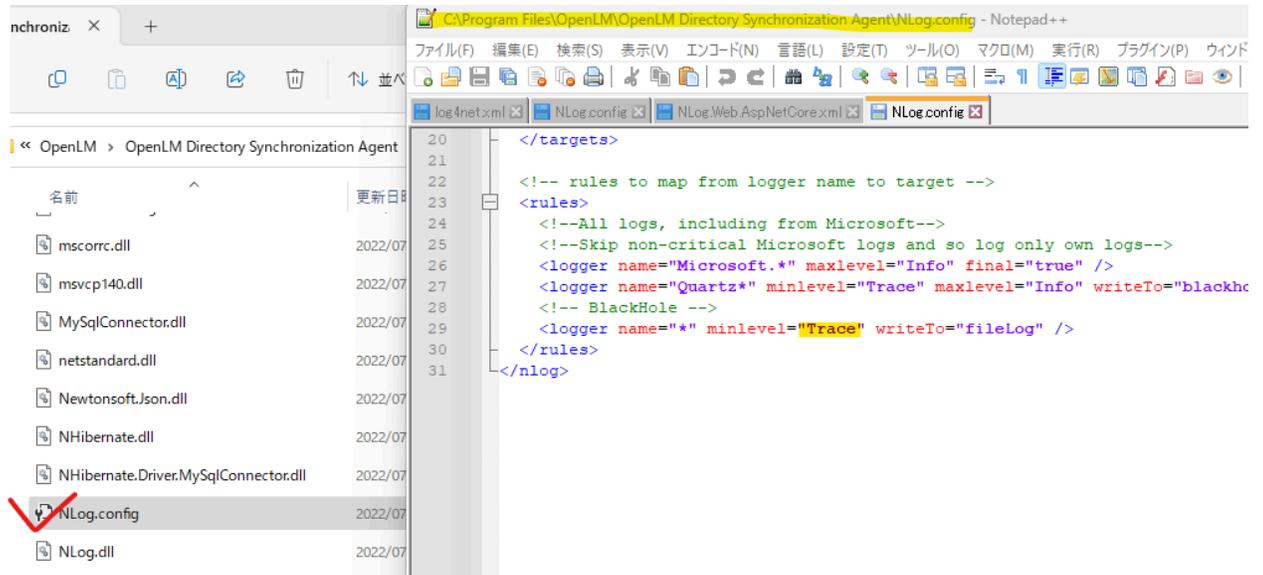
4. Windows サービスで DSSサービスを再起動します。エラーを再現します。
5. ログフォルダーをコピーし送信用に圧縮します。ログレベルをデフォルトに戻します。
6. Windows サービスで 再起動します。古いものと新しいものを送ってください。

<DSA>

1. Windows サービスで DSA サービスを停止します。
2. ログフォルダのバックアップを取り、古いログとして圧縮してください。ログをすべてフォルダから削除します。



3. NLog.config でログ レベルを「Debug」に設定します。minlevel = “Debug”



4. Windows サービスで DSA サービスを再起動します。エラーを再現します。
5. ログフォルダーをコピーし、送信用に圧縮します。
6. ログレベルをデフォルトに戻します。
7. Windows サービスで DSA サービスを再起動します。
8. 古いものと新しいものを送ってください。